

日本に来て感じたこと、驚いたこと

バレンティーナ・ボトホエバ
(ロシア)

日本に初めて来たのは何年も前のことですので、よく覚えていませんが、いくつかのことが印象に残りました。印象に残ったことや今でも不思議に思うことをまとめてみました。

- 湿気がすごいことです。ロシア、特に出身地のイルクーツク市は結構乾燥していますので、初めて来日した時、飛行機を降りた瞬間に感じた湿気が日本の第一印象です。
- 次に驚いたのは店での表記や紙宣伝など、目が痛いほどの色鮮やかさと漢字の多さです。なかなか慣れなくて、とても読みづらいと思います。
- デビットカードがもらいにくくて、もらっても使えないところがたくさんあります。クレジットカードをもらうことも諦めていますし、困っています。キャッシュカードの存在がわかりません。
- トイレのスリッパは、毎回履き替えることを忘れてしまいます。
- マスクをつけることが大好きなこと。ロシアでは医者と移りやすい病気の人しかつけてなくて、周りの人はほぼ全員病気だという感じがしました。
- 机が低くて、不便です。背が高くない私でも不便だと思うぐらいに低いです。体の大きい人がかわいそうです。
- 電車が時間通り走ることです。日本ならではのことです。

日本に来て感じたこと

楊 蕊
(中国)

皆さん、こんにちは。中国の国際交流員楊蕊と申します。

夏の時、山口県国際教育研究大会に参加できて、とても光栄と思っております。

中国の学校教育をグループの皆さんとシェアしたり、日本の教育の様子を教えていただいたり、いろいろ情報交換をしました。

日本と中国は多くの面でたくさんの違いがあることを感じました。今日は日本へ来て感じたことを皆さんにシェアしたいと思います。

一番目は、日本は静かできれいな国です。どこにいても、他人に迷惑をかけないように静かで、できるだけ小さな声で喋る日本人の姿を見て、中国人のどんちゃん騒ぎとは大違いだなと深く感じます。道路にゴミ箱は置いてないのに、街並みがきれいで驚きました。

二番目は、日本人はマナーがよいことです。毎日の「おはようございます」、「お疲れ様です」などの挨拶はよく耳にします。そして、お辞儀も大好きです。例えば、打ち合わせが終わって帰る前に、何度も何度もお辞儀して「よろしくお願いします」という姿はよく見かけますが、はじめの頃はよく慣れませんでした。

三番目は、細かいところにこだわることです。日本人は真面目な人だと日本へ来る前に聞いておりましたが、こんなに細部までこだわるとは思っていませんでした。例えば仕事の時、ミスが出ないように何度も打ち合わせをして、時間の何分何秒まで決められる場合もあります。細部まで気を抜かない日本人の精神を強く感じました。中国人は大雑把なところがありますから、日本人の繊細なところは勉強になると思います。

日本に来て、まだ一年経ってないです。分からないことがまだまだたくさんあると思います。これから、もっと日本の文化と習慣を理解して、国際交流に力を入れようと思います。

日本に来て感じたこと

イ・スンファ
(韓国)

1回コンビニで120円分のブラックサンダーをレジに持って行った瞬間、現金がないことに気づいてデビットカードを出しましたが、すごく変な目で見られたことがありました。

一番驚いたことはカード対応の貧弱さです。韓国では大学を卒業するまではデビットカード、社会人になったらクレジットカードを使うのが一般的です。

そして基本的にカード自体に東京のSuicaや大坂のICOCAのような交通カードの機能が入っているので、クレジットカードと交通カード2枚を持って歩く必要はないです。

最近山口でもPay系に対応している店が増えている気もしますが、まだ足りないと思います。

もちろん手数料や設置までの過程がすこし複雑かもしれませんが。

そして2番目は高い交通費です。タクシーはもちろんバスも、地下鉄も、電車も私にとっては、私が韓国人を代弁するわけではありませんが、たぶん韓国人にとっても高い感じがします。

私は山口市に住んでおり、映画が見たいときには、往復で1180円を払わないと映画館に辿り着くことさえできません。

1180円の頭金を払ってからやっと映画のチケットを買う資格が与えられるのです。

交通費が高いのは少し悲しいことですが、タクシーやバスの運転手さんがすごく親切で、安全運転をしてくださることに感心しました。

3番目は店での喫煙ができることです。

100歩譲って居酒屋の店内で吸うことができるというのは理解できるとしても、モスバーガーの中に喫煙室があることには本当に驚きました。

五輪に備えて、東京は去年からだんだん店内の全面禁煙が進んでいるそうですので、一刻も早くここ、山口でもその動きが発生することを心から祈っております。

日本に来て感じたこと

ヘマ・ガルベス
(スペイン)

「日本」と言えば、一般的なスペイン人の頭には、「侍、芸者、トヨタ、アニメ、先端技術」というイメージが浮かんできます。

スペイン人の日常にどこにでもある日本メーカー商品の質を見て、日本人は頑張り屋で几帳面な国民だと思われま

す。私も日本に来て確かにそういう几帳面なところがあることに気づきました。

スペイン人に比べると、より静かでとても礼儀正しいです。

どれだけ日本に長く住んでいても、いつでも失礼に当たるような行動をしてしまうと思います。

しかし、私は日本の文化についてまだまだ分からないところがたくさんありますが、周りの人が日本で生まれ育っていない私の事情を理解してくれて、配慮してくれています。

周りの人のことを配慮するところこそが大好きです。

スペイン人はどちらかというと、かなり個人主義だと思います。

そのせいで、自分の意見を何も構わず言ったり、グループで決めたことでも反対したりすることもあって、それで誤解や喧嘩が生じることもあります。

しかしその一方、交流の仕方が自然で、人と人との距離感が日本より近い気がします。

去年のクリスマスに里帰りして、家族と親しい友達に会ってハグしたり、キスしたり、道で大きな声で笑ったりして、信頼感がよく伝わりました。

時々日本でこういう交流の仕方がないので寂しくなります。

そして、両国の特徴を比べて「スペイン人と日本人の性格の間がいいな」と何回も思いました。

その他、日本に引っ越してから、季節の変わり目に少し注目するようになりました。

今は一の坂川周辺に住んでいるのですが、毎月違う花が咲いていてとても素敵な雰囲気です。

山口に引っ越してから秋が一番好きになりました。

地元は暖かくて、秋っぽい景色があまり楽しめないのが、毎年の山口の紅葉やイチョウの色を楽しみにしています。

スペイン、バスク自治州の小学校教育について

山口市国際交流員 ビジャモール・エレロ・エフライン
(スペイン)

日本は、国際社会に通じる人材育成に応じて、教育現場に英語の強化を進める試みがあるが、私の故郷であるスペイン北部、バスク自治州の「多言語教育」は世界的に稀なケースである。

系統不明の少数言語であるバスク語 (*euskera*) による教育、スペインでの共通語となっているスペイン語や英語などで受ける教科もある。

第2外国語としてではなく、それぞれの言語で教育を受ける。

しかも現地の人のみならず、バスク語という独自の言語での教育を希望する多くの移民家族もいる。

スペイン近代史の中で、バスク語が禁止された経緯もあり、この言語の社会的な地位は、バスク自治州でさえ少数派言語になっているが、教育政策を通じて、現在復興しつつあります (約 100 万人の話者がいる)。

また、バスク語の言語学習を支援する教員や、20%以上外国籍児童が属する学校では、移民家族との連携やバスク社会への文化的適応を図る「異文化間仲介者」など、包括な方針の下、多言語教育が実行されている。

世界で面白い教育現場であると思っている。